

## 読売新聞 きょう（9月27日）のイチ押し

### 1面など 農産品7700億円分 関税減免（13S以降の見出し）

日米貿易協定交渉で安倍首相とトランプ大統領は最終合意を確認する共同声明に署名しました。

- ★ 日本は米国からの牛肉や豚肉などの関税を下げ、米国は協定が適用されている間は車に制裁関税を発動しないという内容です。
- ★ 安倍首相は「ウィンウィン」となる結果と自画自賛していますが、車の関税撤廃については継続協議となりました。最終合意に至る背景などを多面展開しています。

### 社会面 伊丹保安検査 刃物通す

大阪空港の全日空の保安検査場で26日朝、刃物を手荷物の中に入れていた男性を確認しながら、検査員がそのまま通していたことがわかりました。その後、検査場を正午過ぎまで閉鎖したため、空港は大混乱となりました。

- ★ X線検査で、女性検査員は刃物を確認したものの、持ち主の男性から「大丈夫」と言われ、刃物を返して通過させました。航空法では、刃物などの危険物は機内への持ち込みが禁止されており、没収が原則です。なぜ通過させたのか謎が深まっています。
- ★ 時あたかもラグビーW杯で多くの外国人観光客が日本を訪れ、国交省は保安検査強化対策を打ち出していたばかりでした。幸い、大事には至りませんでした。検査員のミスによる欠航・遅れは58便にも上ります。再発防止のため、徹底した検証が求められます。

#### 他紙と比べて

外国人労働者の受け入れを拡大する特定技能制度の創設から間もなく半年になります。読売新聞は新資格を得た人を追跡取材し、日本で働きながら生活する利点や課題を聞きました。1面と特別面のほか、全国の地域版でも関連記事を掲載しています。